

内務省附属麻薬対策局タラス地方事務所開設式典への出席



6月28日、前田大使はタラス州に出張し、平成29年度対キルギス無償資金協力「薬物管理支援計画」（UNODC連携）の枠組みで開設された、内務省附属麻薬対策局（CNS）タラス地方事務所の開設式典に出席しました。

同式典にはニヤズベコフ内務大臣も出席しました。

「薬物管理支援計画」は、CNS職員への研修実施、違法薬物取締りに必要な機材の供与、タラス州及びジャララバード州国境地帯におけるCNS地方事務所の開設等の活動を通じて、当局の薬物管理体制を改善し、もってキルギス及び中央アジア地域全体の安定に寄与するものです。

日本政府は2018年より本案件を実施し、UNODCを通じて約290万ドルを支援しています。

前田大使は式典において、CNSタラス地方事務所が、カザフスタンとの国境沿いという最前線において違法薬物の流入を未然に防ぐとともに、供与された機材や研修の機会を活用して、CNSの人材育成にも寄与するよう期待すると述べました。

また、今回の式典においては、令和3年度対アフガニスタン・イラン・中央アジア5カ国補正予算「アフガニスタンにおける麻薬対策及び薬物生産・支援による悪影響の緩和のための法執行能力の強化」で供与された、麻薬探知犬によるデモンストレーションが行われました。

（了）